

前期を終えての TA の振り返り および後期への実践研究の展望

異文化コミュニケーション研究科言語科学専攻 博士課程前期課程 1年
三浦 綾乃

○三浦 みなさんこんにちは。異文化コミュニケーション研究科言語科学専攻一年の三浦綾乃と申します。私は今年度の前期から一年間、中級日本語A、B、C、Dを谷先生と藤田先生の下、TAとして入らせて頂いております。只今はちょうど中級日本語Aと中級日本語Bが終わって、折り返し地点となっております。ですので、本日の私の発表は、タイトル『前期を終えてのTAの振り返りおよび後期への実践研究の展望』としまして、現段階TA真っ只中の身としてお話ししたいと思います。よろしく願います。本日お話しする内容なんですけれども、大きくわけて四つあります。まず、前期に行ったTAとしての業務について。続いて、TAを通して学んだこと、気づいたことについて。そして、前期のTAを通して見えた自分の課題。最後に、後期に向けての実践研究の展望についてお話しします。【スライド⑦-2】

それではまず、一番目から。前期に行ったTAとしての業務です。私は前期にTAに入らせていただいたのは、中級日本語Aと中級日本語Bです。授業の内容については先ほど藤田先生と谷先生から詳しいご説明があったので、割愛させていただきます。この二種類の授業で、私がTAとして主に行った業務が、まず中級日本語Aのクラスの方では、機材の準備とディスカッションへの参加、学生のフォロー、作文作成や発表の時の学生の手伝い。それと実際に自分がモデル発表をしたり、あるいは学生のグループに混ざって一緒に発表する。それと、課題の説明と課題のフィードバックを行いました。それに対しまして、中級日本語Bでは、似ているところもあるんですけど、まず機材の準備とディスカッションへの参加、そして学生のフォローと、発表の手伝い。中級日本語Bの方では、語彙説明と板書も行いました。毎回自分のTAとしての成長なり何なりを振り返る

ことができるように、毎回の授業後には小さいノートにメモ程度のダイアリーをつけて、後ほどのフィードバックなどに使用しました。【スライド⑦-3】

それでは続いて、この前期の TA を通して学んだこと、気づいたことについてお話しします。まず一点目が、TA という存在とその立場についてです。TA というのは、先生でもなくて学生でもない存在。この発表では、履修学生のことを学生と呼ばせて頂きます、すいません、今更（笑）。その学生に日本語を教える機会を持ちながらも、自分自身が学ぶ立場にあるという、先生でもない学生でもないどちらにも属するような不思議というか、微妙な立場で、最初の方はどうしたらいいのか正直分からなかった、自分の立ち位置を決めかねていた時がありました。その授業に来てくれる学生は、私のことを三浦さんと呼んでくれる人もいれば、先生と呼ぶ人、先輩と呼ぶ人、あるいは最初の授業で自己紹介した時にニックネームをつけていたんですけれど、その時のニックネーム、三浦ちゃんと呼んでくれる人、本当に様々でした。そういった彼らも、授業の中では私を先生として日本語の面で頼ってくれるということで、こうした TA という不思議な立場だからこそ、学生と友達にはなれないけれど、学生は話しかけたり、先生には質問しにくいことを私には聞ける、そんな存在になりたいと思って、前期、その立ち位置を「こころへんだろう」と決めるあたりから、頑張るようになりました。具体的には先生が来る前に私は機材の準備で教室にすることが多いんですけれども、その時に早めに来た学生と、朝少しコミュニケーションを取ったり、そうすることで私と学生の間の関係性を良く保てるように努力したり。あるいは、学生同士でも、留学した時期が違っていると若干まだ初対面みたいな学生同士も多いので、そういった学生同士も会話で繋げるような努力をしてみました。【スライド⑦-4】

二点目が、せっかく異なる授業に参加させて頂いているので、それぞれ中級日本語 A、B 共にですね、藤田先生、谷先生の個性でしたり、良いところが随所に表れていて、とても学ばせて頂きました。具体的にクラス運営としましては、例えば学生の性格や人間関係にも考慮したグルーピングを先生がなさっていたり、あるいは指名の順番を変えていたり、指名する学生もそういったことを考慮して決めていたりなどして、ただ単に適当に指しているわけでも、適当にグループを組んでいるわけではないんだなということに気づかされました。それと、文法や語彙などの日本語の説明の仕方に関してなんですけれども、例としては中級日本語 B で谷先生が語彙説明の時に、必ずと言っていいほど、その語彙が実際の日本の

生活でどのように使われているのかをホームページやニュース記事、新聞記事などを実際に見せることで、学生に提示していたんです。そうすることで、学生が実際に自分が今勉強している日本語っていうのは本当に日本の実生活で役に立つ日本語なんだ、使える日本語を勉強しているんだなと実感しているようで、毎回毎回先生が例を出すたびに、興味津々に先生のスクリーンをじっと見て、一生懸命メモを取っている姿がよく見えました。こうやって実際に使えるような例を沢山提示してあげることって、学生にとってはすごくプラスになるんだなと学ばせていただきました

三点目が話題やテーマの導入の仕方です。こちらは主に中級日本語Aの藤田先生の方なんですけれども、私は主に、先ほどの藤田先生の発表でも紹介して頂いたんですけれども、口頭発表で作文のフィードバックや課題についての説明をすることが多かったんです。それで私が説明する前に、藤田先生が何となく私がこれから話すようなテーマの復習を入れてくださったりとか、それに関連するミニ動画だったりとか、ちょっとした写真、またはそれについての簡単な会話などを、導入として入れてくださったことによって、私自身もその後自分の発表がしやすかったし、学生も非常に理解しやすくなったと思います。こういったさりげない導入、ちょっとあると無いとでは、全く違うんだなと気づかされました。

最後がディスカッションの進め方ですね。こちらは先ほど谷先生もおっしゃっていたんですけれども、中級日本語Bの方では、ディスカッションの際に小さなホワイトボードを使って進めていました。そこにディスカッションの時に出てきた少し難しい語彙だったり、それからキーワードとなるような単語を書いて、学生に見せながらディスカッションを進めていったんですけれども、そうすることで学生がうまく使えなかった語彙をディスカッションの中でうまく使えるようになったり、あるいは知らなかった語彙が増えたり、それはキーワードを書くことによってその話題についてもう少し深くみんなで話し合うことができたりなど、非常に学生にとってプラスになることが多いんだなと思いました。こういったディスカッションの進め方もあるんだなと、非常に勉強になりました。このようにですね、毎回毎回のダイアリーを見直すと、本当先生方の小ワザというか、配慮というか、そういったアイデアというのが、私はまだまだ駆け出しなので、全くそういうのがなかったんですけれども、こういったやり方があるんだ、こういう風にもすることもできるんだなというところが授業の随所に表れていて、とても勉強

強させていただきました。これは実際 TA に入ったからこそ気づけたことでもあります。**【スライド⑦-5】**

そして三点目が、一参加者として授業に関わることです。まずレベルの異なる学生のフォローなんですけれども、分かりにくい文になってしまったんですけれども、これはつまり、中級日本語 A、B は共に J4 から J6 のレベルの異なる学生が共に学び合う教室、クラスであることです。普通の授業のアシスタントとは異なって、私自身が実際に授業に参加することが多かったです。学生のフォローやディスカッションの参加で、学生と関わるが多い、学生に交じって発表することもありました。そうすることで私がただのアシスタントではなくて、実際に授業の一員、授業を作り上げる一員になっているんだという自覚が生まれました。学生からの授業内の質問で、改めて日本語について考えることもありましたが、自分の知っている日本語が必ずしも正しくないというか、それが全てではないということにも気づくことができました。また、授業に参加することで、実際に先生がどのように日本語を教えているのか、どのように授業を進めているのかというのを実際間近で見ることができて、実際の日本語の授業を肌で感じることができました。つまり、TA として授業に参加するというのは、こうした以上の点から見ても、非常に貴重な体験をさせていただいているんだということ、それと、これは非常に有意義なことなんだということに改めて思いました。

続いて、以上が前期の TA で私が学んだことだったり、気づいたことなんですけれども、今からですね、その前期の TA を通して、自分の課題についてお話しします。**【スライド⑦-6】**

前期の TA を通して自分の見えた、自分の課題に関しまして、はい。まず最初に、主に口頭発表の面で見えた自分の課題についてですね。今スクリーンに挙がっているのが、この左側のやつは、私は実際に中級日本語 A の方で、フィードバックだったり、課題の説明なんかで使ったパワーポイントです。これを用いて学生に話していたんですけれども、まず課題の一点目が、話すスピード。中級日本語が異なるレベルの学生がいるにも関わらず、私の話すスピードが速すぎたために、J4 の学生にとっては聞きづらい時が多々ありました。あとは、話す時の癖ですね。これは話すスピードにも関わってくるんですけれども、私が発表する時に、言い間違えた時の言い直しと、あるいは一度説明したことをもう一度最後に、短くまとめて学生にもう一回言う時が、早すぎる。これは私の癖でして、これは

藤田先生のフィードバックで初めて気づけたことでもあります。そういった話す時の癖が、学生にとっては理解の妨げになってしまうということです。

それと、質問の投げかけ方ですね。途中からただ説明するだけではなくて、学生に質問を投げかけながら一緒に理解を深めていこうというのを、自分で意識してチャレンジはしてみたんですけども、その質問の投げかけ方が下手で学生が、私が何を聞いているのか分からない。それゆえ、私が求めていたのとは全く異なる答えが返ってきてしまうということが何回かありました。つまり学生に伝わるようなキューの出し方というの、これから考慮して、考えていかなければならないんだなと思いました。つまり、発表に私がいっぱいいっぱいになってしまうことが多かったので、後期はもう少し学生の反応を見ながら発表なり何なりを進めていければいいのかなと思います。

それと、これもフィードバックで挙がってきたことなんですけれども、こうやって作ったパワーポイントを学生に資料として配布してもよかったのではないかというアイデアも頂きました。これは実際に学生が発表する時に使える表現だったり、またはちょっとした例として、学生が手元に残しておけると、学生が準備の時に使えるのかなということで、資料配布も今後考えていきたいと思います。【スライド⑦-7】

続いては、これは主に中級日本語Bの語彙説明の時の課題なんですけれども、今スクリーンに挙がっているのは、私が実際に中級日本語Bで説明した語彙、改正・育児休業法という語彙について説明していたもの、そのままですね。これはそのまま、説明しました。まず、見てお分かりのとおり、文字が多すぎたこと。それと、この授業に関しては、情報量が多すぎた。学生がパンクしてしまうようでした。それと、言葉が学生のレベルにあっていない。少し難しい文だったり、難しい語彙を使いすぎてしまいました。もう少し学生が理解できるような語彙や表現に変えるべきでした。あとは、分かりやすくするために、図などにして説明しても良かったというアイデアも、先生からフィードバックで頂きました。見づらいなと思って、こういった分かりやすく学生がいかに理解してくれるかなというのをもう少し考えるべきだったと思います。先生からのフィードバックでもう一点ありまして、例えば、改正・育児休業法というワードだけ最初に出して、漢字から意味を連想させてみるとか、そういったことも私は全く思いつかなかったなので、アイデアとして有りがたく頂戴させていただいて、後期に活かしてい

たいと思います。

中級日本語 B では主に語彙説明を任していただけることが多かったんですけれども、その際に自分は語彙を説明しなきゃ説明しなきゃということに捉われすぎてしまって、授業を進めていくにあたって、どの意味をどの程度学生に教えればいいのかという考えが欠けていたように思います。ですが、教える立場としてはそういうこともちゃんと考えていかなければならないんだなど、気づかされました。【スライド⑦-8】

以上述べた課題をまとめると、このようになります。これが後期に向けた課題です。大きく四点ありまして、一点目は説明時に学生に与える情報の量。話すスピードと自分の話す時の癖。それと、質問の投げかけ方。学生がより理解しやすい説明の仕方。これが、前期の TA を通して見えた私の課題となります。【スライド⑦-9】

では最後に、前期の反省を生かして、後期に向けての実践研究の展望についてお話ししたいと思います。前期の TA というのは、とにかく目の前のことに必死でした。しかしこの TA という貴重な機会、せっかく与えられた機会なので、私自身が教師として自己成長するため、それを目標に小さい研究を行いたいと思います。後期の TA ではですね、この前期の反省点や問題点、課題を踏まえて、課題を改善する策を作る、それを後期の TA で実践する、そして内省。それを繰り返すアクションリサーチを行います。現段階でテーマとして考えられるものは三点ありまして、まず学習者への課題説明とフィードバックの仕方、質問の投げかけ方に関するアクションリサーチ。または、語彙説明の仕方に関するアクションリサーチ。後期中級日本語 D の方では、ディスカッションの司会をすることもあるそうなので、ディスカッションの時の司会としての立ち振る舞いに関するアクションリサーチ、というテーマが、現段階で私が考えているテーマです。後期の TA ではこれらを指導して下さる先生方と相談しながらですね、テーマを絞って、アクションリサーチを進めていきたいと思います。そうすることで、TA をただの業務とか、アルバイトとして終わらせるのではなくて、自分自身が将来のために、自分の日本語教師としての成長に繋げていきたいと思っております。以上です。皆さん、ありがとうございました。【スライド⑦-10, 11】

【スライド⑦-1】

前期を終えてのTAの振り返り および後期への実践研究の展望

異文化コミュニケーション研究科
言語科学専攻1年
三浦綾乃

【スライド⑦-2】

目次

- ▶ 1. 前期に行ったTAとしての業務
- ▶ 2. TAを通して学んだこと、気づいたこと
- ▶ 3. 前期のTAを通して見えた自分の課題
- ▶ 4. 後期に向けての実践研究の展望

【スライド⑦-3】

1. 前期に行ったTAとしての業務

▶ 中級日本語A（伝統的テーマで読解教材が中心）

- ▶ 機材の準備
- ▶ ディスカッションへの参加
- ▶ 学生のフォロー
- ▶ 作文作成や発表の手伝い
- ▶ 発表
- ▶ 課題の説明、フィードバック

▶ 中級日本語B（現代的なテーマで視聴覚教材が中心）

- ▶ 機材の準備
- ▶ ディスカッションへの参加
- ▶ 学生のフォロー
- ▶ 発表の手伝い
- ▶ 語彙説明
- ▶ 板書（漢字、ルビ）

毎回の授業後にダイアリーをつけた。

【スライド⑦-4】

2. TAを通して学んだこと、気づいたこと

（1）TAという存在、立場

- ▶ 先生でもなく、学生でもない存在
- ▶ 学生に日本語を教える機会を持ちながらも、自分自身が学ぶ立場にある。
- ▶ 学生が話しかけたり質問しやすい人になりたいと思った。

【スライド⑦-5】

(2) 先生方から学べること

- ▶ クラスルーム運営
- ▶ 文法や語彙などの日本語の説明の仕方
- ▶ 話題やテーマの導入の仕方
- ▶ ディスカッションの進め方

【スライド⑦-6】

(3) 一参加者として授業に関わること・・・

- ▶ レベルの異なるクラスでの学生のフォロー
- ▶ 授業を作りあげる一員としての自覚
- ▶ 先生からも学生からも学べる。
- ▶ 実際の教育現場を見て感じるができる。

TAとして授業に参加する→貴重な体験

【スライド⑦-7】

3. 前期のTAを通して見えた自分の課題

おふたの中心
おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。

- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。
- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。
- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。
- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。
- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。
- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。

まとめ


- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。
- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。
- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。
- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。
- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。
- おふたの中心は、おふたの中心を軸とした活動を行います。

- ▶ 話すスピード
- ▶ 話すときのクセ
- ▶ 質問の投げかけ方
- ▶ PPTを資料として配布しても良かった。

【スライド⑦-8】

改正・育児休業法

- 育児休業をとする家庭の労働者の職業生活と家庭生活を支援する法律。
- 初めてこの法律が施行されたのは1992年4月1日。その後何度か改正され、2010年6月30日に今の育児休業法が施行された。
- 現在では、以前より短期間労働の申請がしやすくなり、休業の免除が義務化された。
- 育児休業のさらなる延長なども認められた。(子供が1歳になるまで→1歳2ヶ月になるまで)
- また、父親の場合育児休業が2回取得できるようになるなど、女性だけでなく、男性も育児に参加しやすくなった。



- ▶ 文字が多い。
- ▶ 情報量が多すぎる。
- ▶ 言葉がレベルにあっていない。
- ▶ わかりやすくするため、図などにして説明しても良かった。

【スライド⑦-9】

後期に向けた課題のまとめ

- ▶ 説明時に学生に与える情報の量
- ▶ 話すスピードと自分の話すときの癖
- ▶ 質問の投げかけ方
- ▶ 学生がより理解しやすい説明の仕方

【スライド⑦-10】

4. 後期に向けての実践研究の展望

- ▶ **後期のTA**・・・前期はとにかく目の前のことに必死だった。しかしせっかく与えられた機会なので、教師としての自己成長を目標に小さい研究を行う。
- ▶ **アクションリサーチ**・・・前期の反省点や問題点をふまえて後期のTAで改善策→実践→内省を繰り返す。
- ▶ **テーマとして考えられるもの：**
 - ①学習者への課題説明とFBの仕方、質問の投げかけ方に関するアクションリサーチ
 - ②語彙説明の仕方に関するアクションリサーチ
 - ③ディスカッション時の司会としての立ち振る舞いに関するアクションリサーチ

【スライド⑦-11】

